

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

新しい^ま都会^ちに (中野中だより)

平成 29 年 5 月 2 日発行

No. 2 校長 矢口 仁

情報を活用する力 - メディアと上手につき合う - 校長 矢口 仁

目の眩^{くら}むまでにつつじの色盛ん 西村 舟津

新緑が鮮やかな季節がやってきました。四季の森公園ではつつじが満開を迎えています。学習やスポーツ、文化活動に絶好の時期です。自分の時間を上手に使って、存分に学び、楽しんでほしいと思います。



さて、中野区の中学校に本年度から新聞が届けられるようになりました。朝日、毎日、読売、産経、東京、日本経済新聞の六紙です。今後、図書館に置き、生徒たちが読んで、上手に情報を活用してほしいと願っています。

昨年の3年生に聞いたところ、新聞を購読していない家庭が4割弱でした。テレビやインターネット等の普及、雑誌や書籍の多様化で、新聞が情報の伝達手段(メディア)の中心ではない社会になっています。

新聞のよさは、ページをめくると様々なニュースを一度に知ることのできる「一覧性」、詳しく伝えられない内容を細かく解説できる「詳細性」、取っておいて改めて何度も読むことができる「保存性」にあります。

一方、インターネットは、情報を早く知り、自分の好きな情報だけ保存したり、印刷したりできる便利なメディアです。また、テレビは中継等で、即時に実際のニュースを知ることができ、チャンネルを変えれば多様な情報に接することができます。

注意したいのは、新聞もテレビもインターネットも作り手によって「編集」がなされているという点です。編集者の意図や扱い方によって、ニュースの内容が違う観点から私たちに伝わってきます。ですから、一つの情報をうのみにするのではなく、それぞれを比較して、考えながら自分の生活に役立ててほしいと思っています。

ジャーナリストの池上彰さんが「テレビも新聞もインターネットも、それぞれの特性をよく理解したうえで活用すると、とても役に立ちます。しかし、使う人が自分なりの問題意識をしっかりとって読みこなさないと、メディアに踊らされたり、大失敗したりすることがある点には注意しておく必要があります。」(『メディアと上手につきあうために』)と述べています。

今後ますます情報が氾濫し、多様化する時代になります。情報を収集したうえで、正しく取捨選択し、それを上手に活用して、自分の生活に役立てたいものです。